



「自分っていいな」を育む ～家庭と学校は車の両輪～

校長 町田 大樹

先週はご多用の中、学級懇談会にお越しいただき、ありがとうございました。コロナ禍での開催のため、2日間に分け、感染症対策を講じた中での実施となりましたが、多くの方にご参加をいただきました。ご理解とご協力に感謝申し上げます。

今回は授業参観の代わりに映像等で子どもたちの様子をお伝えしました。このような状況でもあえて懇談会を実施したことには理由があります。学校の教育活動は保護者の皆様と共に進めていくことが欠かせません。懇談会は皆様に学校の様子を知っていただき、担任の学級経営の方針なども理解していただく大切な機会となります。また、保護者同士が顔の見える関係を築くためにも必要だと考えています。

子どもは環境の中で成長していきます。友達、担任をはじめ、地域で様々な人に出会い、様々な経験を通して成長していきます。その姿を学校と保護者で共有し、よりよい成長につなげたいと考えています。教職員の指導・支援の方向性と保護者の方向性が一致していれば、子どもたちは経験の中で何がよいのかを理解し、納得して成長していきます。もちろん人は様々。大人も様々です。多様性の中で成長できることは学校の魅力の一つではありますが、根本の指導・支援のところで、考え方にずれが生じることは避けたいと思っています。それはお子さんに混乱を招き得るからです。

特に、学校で大切にしたいことは、お子さんの今を認め、がんばりを認め、成長を認めて自尊感情を育てることです。「自分っていいな」という自尊感情の根っこのところを育みたいと思っています。これは一朝一夕にできるものではありません。周囲から自分の努力が認められたり、そばで誰かが一緒に泣いたり笑ったりしてくれる経験、一緒にご飯を食べたり雑談したりする何気ない経験、そうした経験を一つひとつ積み重ねていくことが自尊感情を育てるためには必要です。その一人ひとりの積み重ねやよさを学級で生かすことが、学級づくりの要となります。

学級担任は限られた期間でしかお子さんの成長を見守ることができません。個人面談や学級懇談会を通して、保護者の皆様とお子さんの様子を共有させていただき、支援に生かしていきたいと思っています。

子どもたちは様々なことにチャレンジし、失敗することもあります。大人からの手助けなしに、大切なことを自分でつかみとり、学んでいく過程もあります。教職員はそのよき伴走者でありたいと思っています。お子さんの日々の経験を保護者の皆様と共有し、家庭と学校が車の両輪となって健やかな成長を育んでいけるよう、これからも努めていきたいと思っております。